

# 「清水港カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画」 について



令和5年3月22日

静岡県 交通基盤部

港湾局 港湾企画課 1

# 国におけるカーボンニュートラルの動き

## ●内閣総理大臣所信表明演説(2020年10月26日)

「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す。」

## ●内閣総理大臣施政方針演説(2021年1月18日)

「2050年カーボンニュートラルを宣言しました。もはや環境対策は経済の制約ではなく、社会経済を大きく変革し投資を促し、生産性を向上させ、産業構造の大転換と力強い成長を生み出す、その鍵となるものです。意欲的な2030年目標を表明し、各国との連携を深めながら、世界の脱炭素化を前進させます。」

## ●地球温暖化対策推進本部(2021年4月22日)

「2050年目標と統合的で、野心的な目標として、2030年度に、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指します。さらに、50%の高みに向けて、挑戦を続けてまいります。このあと、気候サミットにおいて、国際社会へも表明をいたします。」

## ●「カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画」策定マニュアル:国港湾局(2021年12月)

国際サプライチェーンの拠点かつ産業拠点である港湾において、水素・燃料アンモニア等の輸入等を可能とする受入環境の整備や、事業者間連携による水素需要創出・供給拡大等によりカーボンニュートラルポート(CNP)を形成し、脱炭素社会の実現に貢献することとしており、港湾管理者によるCNPの形成に向けた計画の策定を支援するマニュアルを公表。本計画は、港湾管理者の策定が基本となっている。

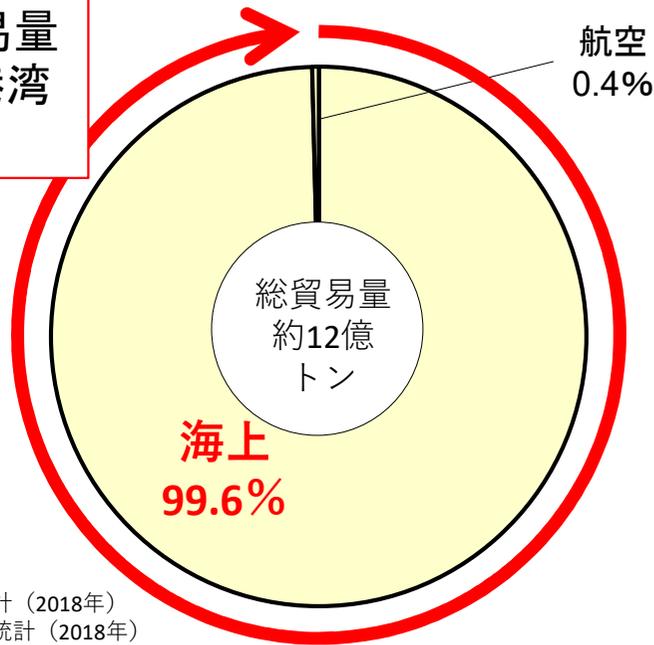
## ●「港湾法の一部を改正する法律案」閣議決定(2022年10月14日)、公布(同年11月18日)

- (1) 港湾における脱炭素化の推進、(2) パンデミック・災害の際の港湾機能の確実な維持、
- (3) 港湾の管理、利用等の効率化と質の向上

# 国際サプライチェーンの拠点・産業拠点である港湾

## 総貿易量

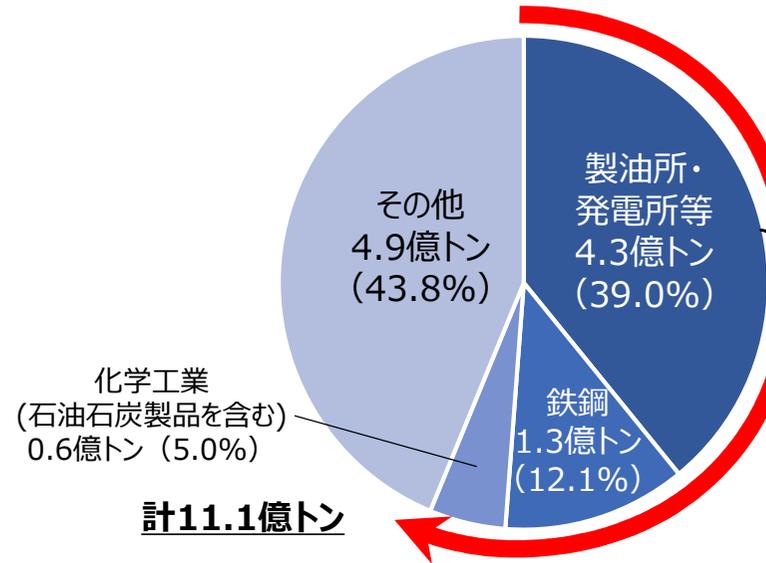
日本の総貿易量の99.6%は港湾を經由



出典：港湾統計（2018年）  
貿易統計（2018年）

## CO<sub>2</sub>排出量 (2019年確報値)

CO<sub>2</sub>排出量の約6割を占める産業の多くは、港湾・臨海部に立地



【出典】国立環境研究所HP資料より、港湾局作成

うち、事業用発電は約4.0億トン  
【内訳(港湾局推計)】

石炭 約2.3億トン  
LNG 約1.4億トン  
石油等 約0.3億トン

## 製油所、発電所、製鉄所、化学工業は主に港湾・臨海部に立地

製油所

火力発電所

製鉄所

石油化学コンビナート



【出典】数字で見る港湾2020

# 「カーボンニュートラルポート(CNP)」の形成イメージ

## 「カーボンニュートラルポート(CNP)」の形成の目的

- 港湾は、サプライチェーンの拠点かつ産業が集積する空間であり、運輸・製造業等の活動の場として機能
- ⇒ 港湾における脱炭素化の取組を推進することで、  
我が国の産業や港湾の競争力強化と脱炭素社会の実現に貢献

## 「カーボンニュートラルポート(CNP)」の形成のイメージ



### 港湾・臨海部の脱炭素化への貢献

産業のエネルギー転換に必要な水素やアンモニア等の供給に必要な環境整備を進めることで、港湾・臨海部の脱炭素化に貢献

### 荷主等の脱炭素化ニーズへの対応を通じた港湾の競争力強化

世界的なサプライチェーン全体の脱炭素化の要請に対応して、港湾施設の脱炭素化等への取組を進めることで、荷主や船社から選ばれる、競争力のある港湾を形成

